

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770800498		
法人名	株式会社 ジェイバック		
事業所名	グループホーム もも太郎さん(喜多方)1F		
所在地	福島県喜多方市松山町村松字上原22番地		
自己評価作成日	令和5年1月15日	評価結果市町村受理日	令和5年4月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3
訪問調査日	令和5年3月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

接遇スローガンである「あなたの笑顔は私の鏡です」に沿った笑顔が引き出せるように取り組んでいます。
 元旦参り、団子さし、ひな祭り、ひまわり鑑賞等、季節に合わせた行事や干し柿、大根干し作りなど家事作業にも参加していただいています。
 日常生活は野菜の皮むき、洗濯物干したたんだり入居者様が自主的に行っている事を見守りしています。
 換気やアルコール消毒の徹底によりウイルス感染防止に努めています。
 健康記録から食事、排泄、水分量をチェックして減少傾向にあれば色々工夫して提供したり1人おひと

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 法人の運営理念「自由を尊重する」「家族の絆を大切に」を生活支援の場で具体的なサービスに展開していくために職員協働のもとユニットごとの介護理念を定めている。地域との交流が図りにくい現状(コロナ禍)にあっても「一人ひとりに寄り添い」「自分らしい生活が送れるよう」(ユニット介護理念)生活支援を実践している。
 2. 地元から仕入れた食材や事業所の畑で収穫した野菜類を活用して、利用者のお手伝いを頂きながら、季節感が味わえる食事環境を提供している。利用者とともに干し柿や干し大根づくりなどを楽しみ、ホットプレートを用いたどら焼きづくり、暦に応じた行事食などを実施している。利用者の食べる楽しみ・喜びを事業所のみならず、法人本部も理解・応援している。入居時には使い親しんだ湯飲み茶碗、ご飯茶碗、汁椀、箸の持参をお願いしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念のほかにユニット毎に介護理念があり玄関に提示してあります。職員は運営理念、介護理念を意識し実践につなげるようにしています	法人の運営理念を具体的なサービスに展開していくために職員協働のもとユニットごとの介護理念を定めている。現状下(コロナ禍)であっても「自分らしい生活が送れるよう」に支援していく視点を大切にしている。玄関と各ユニット内の事務所に掲示し、職員で共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に副区長や民生委員の方に参加していただき施設の現状報告に対してご意見をいただいたり情報を共有しています。	自治会に加入し、地域の情報を共有するとともに今後は回覧板に事業所からのお知らせをはさみ、グループホームの理解促進と認知症相談等の啓発活動も行う予定である。秋祭りには御輿の来訪や地域の清掃活動(春と秋)には職員が参加し、地域との付き合いを大切にしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設で行う認知症カフェはコロナウイルス感染防止により中止していますが日常の様子を写真と文章で壁新聞でお伝えし市役所に掲示しました。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議には地域包括支援センター副区長、民生委員や市役所職員、家族代表の方々に参加していただき施設で困っていることの相談に意見やアドバイスを頂いて運営に反映しています	年度6回のうち、5回は近隣の公民館で対面開催をしている。1回の書面開催も文書で意見を聴取して双方向的な会議を運営している。委員から行事や諸活動への助言や感想、協議をととして事業所敷地内の除雪に支援を頂く等、運営向上に活かされている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護受給者入居受け入れについての相談やお願い、介護保険で不明な事の確認など高齢福祉課や社会福祉課と協力関係を築くように取り組んでいます	生活保護利用者の受け入れも多く、管理者は毎月担当課窓口に出向いている。運営推進会議やグループホーム部会研修会には包括支援センターや担当課職員も出席しており、意見の交換・共有の機会が多い。事故報告書は持参し、口頭説明を加えて提出している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員により取り組んで勉強会も開催しました。運営推進会議に議事内容を報告しています。	指針に基づき、委員会を3ヶ月ごと、研修会を年2回実施している。今年度は全職員で虐待対応アンケートを行い、内容を職員間で共有しスピーチロックの現状や防止に向けた検討を行っている。日常のケア場面で不適切な言動があった場合、互いに注意し合えるように心がけている。日中玄関は解錠している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	教育委員が中心となり虐待について全職員にアンケート実施し検討しました。報告書を全職員が提出し意識向上と防止になりました。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関して現在対象となる入居者様が居ない為職員間で知識の差があるが、必要な制度は関係者と相談して活用していく		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申し込みや実態調査で利用者様やご家族様に十分な説明を行い契約の締結でも契約書を声に出して読み上げ都度確認し不安や疑問を解消し理解して頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2か月に1階の運営推進会議は家族代表で出席していただき施設や職員への要望や苦情、ご意見をいただいています。内容を議事録にまとめてご家族様に報告しています	管理者は、家族とは利用者との面会ののちに話し合いの時間を設けている。来訪できない家族には毎月の便りで近況報告を行い、電話でのやり取りをとおり、生活支援に活かしている。利用者の好みや声を伺い、暦の行事や献立などにも反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月25日に職員会議を実施しており、職員の意見や提案を聞く機会を設けています。管理者は週報の他に毎月の職員会議議事録を提出、報告しています	毎月の職員会議では職員一人一人が発言できる場を設けており、事業所内の環境整備や在庫管理方法など業務に直結した提案がなされ、運営改善に活かしている。管理者は日々の声かけとともに年2回個別面談を行い、職員の意見を丁寧に聴き、就業態勢にも配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別懇談や職員会議で職員の困っていることや要望等を話し合って職場環境の整備に努めています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実務者研修に職員を推薦したり介護基礎研修に参加してもらうなど研修を受けやすい勤務体制にして職員のスキルアップを推進しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的にGH部会は開催されませんでした が開催時には参加してそれぞれの問題点を話し合い改善に努めたり、質の工場に努めています		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に実態調査に伺い何が不安で困っているのか、どのようにして過ごしたいのか、話しやすい雰囲気作りと傾聴でご本人の想いを引き出します		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みや実態調査で利用者様やご家族様に十分な説明を行い契約の締結でも契約書を声に出して読み上げ都度確認し不安や疑問を解消し理解して頂いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	3か月毎にご本人とご家族様の要望を聞いてその時に必要な支援を見極めて対応に努めています。カンファレンスにて状態に変化がみられた時点で検討しています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事作業等、意欲的に参加されているので見守りして頂きます。その際「有難うございます」「助かりました」と感謝の気持ちも伝えます		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の近況報告で日常の様子をお知らせし受診結果の報告や特変時の連絡など家族様と情報を共有し連携しています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在外出制限しているので外泊していた入居者様も外泊出来ませんが電話や窓越しでの面会は曜日、時間は制限せず支援しています	時間・曜日等に制限を設けず、窓越しでの面会を実施し、家族や馴染みの方々との関係継続を図っている。花見や元旦参りのほか、事業所周辺の散歩をとおして近隣の方々と挨拶を交わすなど、コロナ禍にあっても日常的な付き合いが保てるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が一緒に出来るようなレクリエーションをしたり利用者様同士の関係も把握し席の配置をしています		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時、他施設への入所される場合など状態報告を提出したり担当者会議に出席し情報提供しています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン見直し時に家族や利用者様のご意向を聞き反映させているがご本人が訴えられない場合は日常生活動作や表情、態度から意向を読み取るようにしている。	日々のケア場面や利用者の表情・仕草などから思いや意向の把握に努めている。帰宅願望があるときもゆっくりと話を聴き、思いを受け止めたり、在宅時の生活ペース(食事の時間帯など)にも配慮し、家族の理解・協力も得ながら、利用者本位の生活が送れるよう細やかな支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	申し込み時や実態調査時にご本人やご家族から教えて頂き把握に努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケア記録や申し送りノートに記載したり夜勤者と日勤者の申し送りで職員全員に周知するようにしています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1か月ごとに支援計画がご本人や家族の望む支援につながっているのか職員で話し合い状態変化がみられたときは支援計画を変更、追加するなどしています	利用者・家族・関係者から意見を聴取し、入居時の暫定計画は1ヶ月の短期目標のもとケアを提供している。その後は職員協働で1・2・3ヶ月ごとのモニタリング表をまとめ、長期・短期目標を3ヶ月に設定し、ケアを提供している。毎日の個別記録には、介護計画に沿ったケアの提供状況も記されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録は個別に記入し日勤帯、夜勤帯と職員同士で申し送りをしています。大事な情報は申し送りノートに記入し全員確認するようになっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	市からの健康診断など希望されれば看護師が検診対応しました。緊急受診も職員対応しご家族様に状態報告しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染防止の為に不要不急の外出や受け入れはしませんでした。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望する医療機関を決めてもらっています。市内通院は施設看護師対応していますが、市外はご家族様に協力頂いてるので本人の身体状況や気づいたことを状態報告書にまとめて家族、医療と連携がとれるようにしています。受診結果も家族から報告を受け受診記録作成し職員と情報共有しています	入居時に医療体制を説明し本人や家族が選択できる仕組みをとっている。3か所の医療機関が毎月訪問診療を行い、専門医の受診や入院時には、事業所の看護師が対応している。受診記録や送りノートを活用し、家族と情報の共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤しているので体調変化や気づきがあったら報告、相談して指示を仰いでいます		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には入院にいたるまでの状態報告書を看護師に提供し退院の調整等医療連携室と情報交換していきます		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看護師配置や往診体制が未整備であるので看取りは行っていません。重度化になる前に病院受診していますが1か月以上の入院になる場合は家族や主治医、医療連携室と相談しています。	入居時に、看取りを行っていないことを本人と家族へ説明している。重度化した場合には、家族の意向を伺い、状態の変化に応じて訪問診療医や病院と連携を図り支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを配置しています。コロナ感染防止の為に救命救急講習を実施していませんでした。5年度から実施する予定です		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練(1回は消防立ち合い)の他に毎月避難訓練を実施しています。時間、日中か夜間地震の時と色々な場面を想定して対応出来るようにしています	消防計画に沿って、総合避難訓練を年2回(1回は消防署立ち合い)の他、毎月火災を想定した避難訓練を実施している。運営推進会議を通して、地区消防団へ協力を依頼している。非常食は、約3日分を備蓄している。	夜間を想定した避難訓練や地震・風水害を想定した避難訓練を実施することが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は1人ひとりの生活歴を把握し尊敬をもって言葉かけや対応をしています。排泄や入浴支援時には特に羞恥心に配慮して支援しています。	呼び名については一人一人希望を伺い、常に利用者ファーストで、人格を尊重した丁寧な声掛けを行っている。排泄や入浴時には、羞恥心にも配慮したケアの提供を実践している。個人のケース記録や貴重品などは施錠できる場所へ保管し、プライバシーの保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物や入浴時間、ベッドに入る時間等確認して自己決定していただいています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴、レクリエーション等声掛けしますがご本人の体調やペースを大切に希望にそって支援しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回美容室で訪問していただき、希望のスタイルを確認しながら支援しています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	稲刈りが終わってイナゴ採りの話をすればイナゴの佃煮を提供するなど利用者様と会話しながらメニューに取り入れて季節感を味わっていただいています。大根や白菜など自家菜園を食べる楽しみも支援しています	畑で収穫した野菜や地元のスーパーで購入した食材を活用し、利用者との普段の会話の中から希望を聴き取り、職員が持ち回りで献立を立て作っている。また、誕生日の当日にケーキでのお祝いや利用者の目の前でおやつを作るなど楽しみが感じられるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の少ない利用者様にはご本人に飲みたいもの、食べたいものを聞いたりおやつで提供するなど1人おひとりの状態を把握して支援しています		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしています		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中、夜間帯の排泄パターンを確認して汚染によるパットの軽減に努めています。失敗した場合でも自尊心を傷つけないように対応しています。	排泄記録や利用者の行動・動作から排泄パターンを把握し、羞恥心に配慮しながらトイレで排泄できるよう取り組んでいる。トイレでの自立排泄の維持及びパッドやリハビリパンツに頼らない生活習慣の継続を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は便秘への影響を理解し午前と午後の軽体操への参加を促し、牛乳を提供しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本、1日おきの入浴ですが、本人に希望が聞かれたら支援しています。利用者ごとに風呂の湯の入れ替え、消毒、換気をした後職員と1対1で会話をしながら安全に支援しています。	入浴回数や時間帯など、可能な限り利用者の希望を尊重し、楽しく入浴できるよう支援している。拒否の見られる利用者には、声掛けを工夫し安心して入浴ができるよう取り組んでいる。ゆず湯などの変わり湯で季節が感じらるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調を確認しながら休息の声掛けをしたり居室の温度や湿度確認しながら調整し安眠できるようにしています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内容について確認出来るように薬事情報は一定の場所にファイルして確認しやすくしています。薬事情報を確認しても分からない時は施設看護師に確認しています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人やご家族様から趣味や嗜好品を聞いたり日常生活で意欲的にされていることを把握し個々に役割を持っていただいています		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染防止の為に地域行事は中止になっています。初詣は毎年地域の神社に参拝、ひまわり鑑賞など人混みを避けながら支援しています	建物周辺の散歩や畑で野菜を収穫するなど戸外へ出る機会を設けている。現状下(コロナ禍)で地域の行事への参加は難しいが、人混みを避け季節の草花の観賞や神社へ参拝するなど、気分転換が図れるよう外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を所持されている方はいませんが欲しいものや必要なものは立替で使えるように支援しています病院受診料や調剤薬局での支払いを希望される入居者様にはお金を所持していただき支払いしていただいています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけるのを支援しています。ご家族から職員に電話があった場合でも利用者様とお話しするか確認して取り次いでいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓からの景色は山や田んぼなので季節感には充分に感じられます。居室やホールの温度、湿度は確認して調整するようにしています。	利用者が作った作品や写真が掲示しており、ホールにはソファが置かれ居心地のよい空間が設置されている。テーブルにはパーティションを設置し、居室の温度調整に配慮しながら換気を行うなど安全に過ごせるよう感染対策を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コロナ感染防止の為にパーティションで区切っているためどうしても閉塞感は感じられますがソファを配置したりゆっくり寛げるようにしています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	自分の作品を飾ったり遺影やぬいぐるみを配置するなど、馴染みのものに囲まれて落ち着いて過ごしていただいています	自作の手芸作品や使いなれた湯呑や茶碗を持ち込み、これまでの営みが維持できるよう配慮している。本人や家族の意向を伺いながら、安全面に配慮した家具の配置を行い、居心地のよい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレ、浴室までの動線に手すりをつけて安全に移動できるようにしています。自室がわかりやすいように自分の作品を入口に飾ったり工夫しています		